

# 平塚市市民活動推進委員会

## 令和元年度 第3回 議事録

日 時 令和元年11月12日（火）午後2時から午後4時15分まで  
場 所 ひらつか市民活動センター  
出席者 辻委員長、柳川委員、氏家委員、山田委員、市川委員、中野委員、吉川委員、  
芦沢委員、土井委員、事務局  
傍聴者 なし

### 1 市民活動センター上半期利用状況、事業実施報告について

市民活動センターの上半期利用状況と令和元年度のセンター実施事業について説明した。

#### 〔委員からの意見・質問等〕

- 〈委員〉：七夕期間中に休館を設けたとのことだが、利用者から何か意見はあったか。
- 〈事務局〉：1名の利用者が休館中に来館してしまい、案内を行ったが、それ以外に意見等はなかった。また、休館中は警察の詰所として使われていた。
- 〈委員〉：来年以降も休館の対応はあるのか。
- 〈事務局〉：その予定である。
- 〈委員長〉：以前の施設を利用していた団体が、施設の移転後には利用をしていないの  
ことを聞いたが、団体の活動自体がなくなってしまうのか。それとも別の  
ところで活動をしているのか。
- 〈事務局〉：利用者状況を細かく分析したところ、施設の移転後は、平塚駅より南側にある  
地区の団体の利用が減り、崇善地区の団体の利用が増えている状況である。団体  
自体の活動がなくなっている情報はなく、別の場所で活動していると思われる。  
また、マンション管理組合などの団体についても、別の場所で活動している。
- 〈委員〉：例年9月にセンターまつりが行われているとのことだが、今年度、11月開催  
となった理由はどうか。
- 〈事務局〉：新しい施設となり、今までのノウハウが使えないことや、1階の崇善公民館を  
使わせていただくためのルール決めなど様々な準備を行うのに、今までのスケ  
ジュールでは間に合わないものと判断した。また、9月は市民活動センターのイ  
ベント事業が重なっている時期で、毎年負担が大きかったこともあったことか  
ら、より長期の準備期間を確保するために11月開催とした。
- 〈委員〉：11月24日のセンターまつりは市民プラザの観光フェスティバルとコラボす  
るとPRされている。以前は、平塚駅南口エリアで村井弦斎まつりとコラボして  
いたが、今回は観光フェスティバルとコラボしている。

- 〈委員長〉：日程を合わせたのか。
- 〈事務局〉：合わせたわけではなく、偶然同じ時期になった。また、観光フェスティバルは複数日実施しており、その中の一日が同じ日となり、エリア全体の賑わいが期待できる。
- 〈委員〉：利用している者としての意見でもあるが、会議室での音の問題について、集中して会議ができなくなったなどの意見は挙がっているか。また、その対策は何か検討しているか。
- 〈事務局〉：部屋の中で声の反響と隣の会議室の音漏れの問題については、多くの利用者から御意見をいただいている。対策としては、建物の天井部分に吸音する素材のものを張り、天井で音を吸収できるような対策を検討しているところであり、リース会社と協議をしている。
- 〈委員〉：のぼり旗が外に掲示され、場所は分かりやすくなったが、自動販売機の設置は困難か。
- 〈事務局〉：建物内にはスペースがなく、屋外では近くにあることから、検討が進んでいない状況である。

## 2 提案型協働事業について

令和元年度実施事業の中間報告、令和2年度実施事業の審査結果と意見について説明した。

### 〔委員からの意見・質問等〕

- 〈委員〉：比較的、審査委員の意見が同じ方向でまとまったので良かった。
- 〈委員長〉：不採択となった1件の事業は、審査会の皆さんは同じ意見だったのか。
- 〈委員〉：審査では、物足りない部分があった。
- 〈委員〉：内容はともかく、新規事業の提案が不採択となってしまったことは残念である。今後も色々な事業が提案されてくると良い。
- 〈委員長〉：不採択の団体に結果を伝えた際の反応はどうだったか。
- 〈事務局〉：先日、不採択の団体の方が来庁されたが、どういったところが評価されなかったのかなどを気にされていた。また、バリアフリー情報が一覧で見えるものがないという課題自体は残っていることや担当課との関係ができたことから、また来年チャレンジしたいといった希望を聞いている。事務局として、「こういう視点が欲しかった」という意見が出ていたことをお伝えした。また、平塚市の団体ではなく、藤沢市が拠点の団体でもあることから、平塚市内における高齢者や障がい者のポータルサイトへのニーズを具体的に調べられると、より説得力が増すということや、ポータルサイトの構成もバリアフリーからユニバーサルデザインまで広げるような提案を期待されているので、そういったところを1年かけて練り直していくのがいいのではないかと、といったことをお伝えした。

〈委員長〉：NPO 法人フードバンクひらつかの提案は、以前に確認したときから変わったように思うがいかがか。

〈事務局〉：前の提案では、飲食店や小売店が廃棄する食品を安く提供し、一般の方がそれを見て買いに行くといったアプリケーションであり、これは東京で実際にやられている事例でもあった。しかし、推進委員会でも出ていた「実際に実現可能なのか」、「飲食業組合などと連携できないと難しいのではないか」といった意見を団体にお伝えしたところ、より着実にフードロスが削減できる方法を担当課と協議し、大口の食品廃棄があるような工場などの廃棄食品を減らしていく方が良いという考えになった。そして、その場合には、一般の方がそれを購入する流れは難しいとなり、もともとフードバンクひらつかが支援している貧困家庭を中心に心配することで、相対的貧困を減らしていく提案とした経過がある。

〈委員〉：平塚市では、協働事業の審査会をやるまでのプロセスが丁寧に行われている。中間報告や提案段階において、都度、審査会や推進委員会などで意見を出すことで、団体と担当課がさらに練り直しを行い、最終的により良い、充実した提案となっていったので、とても良い。また、提案団体にとっても意見を都度もらえることは良いことだと考えられる。

〈委員長〉：今回、中間ヒアリングのやり方を変えたと聞いたが、実際に提案をしている団体としては、変わったことについての感想はあるか。

〈委員〉：提案団体としては、すごく良かった。プレゼンテーションの資料を作ることは団体にとって負担も大きく、人員も割いていることもあるので、まとまった資料を整理して、ヒアリングができることは非常に良かった。今後も継続してほしい。

〈委員〉：私もやり方が変わったことは良かったと思う。しかし、審査委員として、団体の方ばかりに質問をしてしまい、担当課が答えるべき場面が少なかったように思えた。担当課からも情報提供、集客、会場確保のことだけでなく、中身に対しての意見や、平塚に特化した部分を説明し、団体と同等の立場で、もっとアイデアを出してほしい。担当課への質問をもっとすれば良かったと後になって感じている。

〈委員長〉：そこは重要なポイントであると思うが、現状の体制がそうなっているのか。

〈事務局〉：事業によっても異なるが、現場でのセミナーや冊子作りなどは団体のノウハウが出る場所でもあり、対応するのは団体になってしまうため、審査の場面などでは、行政の姿は見えにくい部分があるとは思いますが、団体が独自にやっているのではなく、担当課と協議を重ねて実施しているものである。

見える部分を団体がやっていることが多いため、団体が中心に見えやすい。しかし、行政だけではできないことから、協働しているのである。

〈委員長〉：独自にやってくれたら良いなと考えているわけではないか。

〈事務局〉：そういった考えではない。委託であれば、そのような考え方になる場合はある

が、協働であるため、中間ヒアリングを実施するなど、担当課と団体が話し合う機会を設けている、その中で、関係性を築きながら、都度、協議して提案していくものである。

〈委員長〉：中間報告でアドバイスが欲しいという団体については、解決したものとして考えてよいか。

〈事務局〉：例えば、NPO 法人ぜんしんの図書館におけるボランティア体験を通じた不登校・ひきこもり改善・自立支援事業のケースでは、マニュアル作りの参考に平塚市役所にある夢のタネというワークステーションを見学したらよいというアドバイスをもらい、実際に見学に行っている。また、平塚市生物多様性保全推進事業では、協働事業全体の事業目的と所属する各団体の個別の目的との整合性をどうしたらよいかという課題について、協働事業での目的と団体の個別の目的は切り分けて考えた方がよいというアドバイスをしているなど、具体的なアドバイスをしている。

### **3 第1回平塚市みんなのまちづくり事例表彰の選考（非公開）**

第1回平塚市みんなのまちづくり事例表彰の選考を行い、14の表彰事例を決定した。

### **4 その他**

来年度の推進委員会の予定を説明した。

#### **〔委員からの意見・質問等〕**

なし

**閉会**